生徒・保護者のみなさまへ

# 1学年通信

福山市立城東中学校
第１学年通信　ＮＯ．９
２０１８年（平成３０年）１１月９日
１学年主任　小川　好美

## 新人総体は次へのステップ！（10/27･28）

＜生徒のあしあとより＞

●僕たちは１試合目１－０で勝ちました。新チームになって初めての勝利でした。自分のアシストで点が取れたのでとてもうれしかったです。

●個人戦は２回戦で負けてしまいました。悔しかったけど泣きませんでした。２－０で負けていたけど、今までにないくらい本気で全力をつくして２－１にしました。負けたけど全力でやりきったのでよかったです。春季総体に向けて上達してやります！！

●応援でしたが上手な人を見ることによって自分のできていない所がわかりました。だから素振りなどをしてこれからも頑張りたいです。

### ウサギとカメの話

『むか～しむかし，ウサギとカメがかけ比べをしました。足の速いウサギは，カメになんか余裕で勝つに決まっていると思いサボってつい昼寝をしてしまいました。その間に足の遅いカメは，休むことなく一歩ずつ前に進みました。最終的には努力したカメが油断したウサギを追い越して勝ったのです。めでたし，めでたし！！』

この話は，「才能はあっても，いいかげんにやっているとダメになる。また，才能はなくても，真面目で辛抱強い人は，才能がある人に勝つ事もある。」という有名な話です。しかし，本当にそれだけか？ウサギとカメの違いが他にもあるのでは？

この話はウサギとカメが「どこを見て走っているのか」がポイントです。ウサギは競争相手であるカメばかりに気を取られ，「ゴール」を全然見ていない。カメの足が遅いから，つい「まだ大丈夫だ」と思ってサボってしまった。一方カメは，「ゴール」を見て走っている。ウサギが速いからといって焦るわけでもなく，ウサギが寝たからといって自分のペースを変えるわけでもなく，自分がゴールをするために，ひたすら努力をして走る。ウサギは『他人を基準』に生きていて，カメは『自分の目標を基準』に生きている。生き方に違いがあるのです。

新人総体を終えた今，次の大会に向けてどう取り組みますか？中学校を卒業したらどうしますか？あと１０年後はどんな自分がいますか？あなたは，どんな生き方をしますか？

**お知らせ**

１１／１１（日）は授業参観後、音楽室にて学年懇談を行います。
終了後、担任と個別にお話いただくこともできます。よろしくお願いいたします。

# 五感で感じた社会見学(11/2)

バスに乗り広島へ。平和記念資料館では被爆直後の街や人々の写真が展示してありました。目をそむけてはいけない原爆の被害が心に突き刺さりました。多くの修学旅行生や外国人観光客の方もおられ，広島は特別な空気が流れる場所だと肌で感じました。平和公園にはたくさんの人の思いや祈りの力が満ちあふれていました。協力した班別自主見学，みんなで食べたお弁当，気持ちよかったプラネタリウム・・・ルールを守り楽しく充実した一日でした。

【展示品】
廣中さんのお父さんの枕

被爆された方から偶然お話を聞くことができました。

＜生徒の感想文より＞　※一部抜粋

●８４歳の優しいおじいさん（１０歳で被爆し両親を亡くされる）に出会いました。手には数匹のスズメがのっていてご飯をあげていました。子どもの頃食糧難でスズメを食べていたので、今はその時の恩返しにえさをやっているそうです。「私たち（被爆者）の話をたくさんの人に伝えてほしい。原爆の恐さは知らないといけない。忘れてはいけない。」とおっしゃっていました。あと数年で被爆者の方から直接話を聞くことはできません。これから先は話を聞いた私たちに伝える責任があると思いました。

●戦争の恐ろしさを感じた場所は，資料館の地下１階です。そこには廣中さんのお父さんの枕，人々のやけどの写真がありました。それを見て「本当に許せない」と心の底から思いました。家族や友だちをなくし，家も焼け，辛くて悲しかった思いが伝わってきました。その思いをしっかりと心に刻み，これから私たちは日々の生活に感謝して過ごしていきます。

●廣中さんのお父さんの枕，熱で溶けた自転車，原爆ドーム，やけどをおった人の体・・・たった一つの爆弾が関係ない人々を巻き込み，多くの人に心の傷を残したのだと思いました。

●廣中さんのお父さんの血のあとが残った枕を見て，本当につらい中で涙を流しながら話してくださったんだと改めて思いました。平和公園には被爆したアオギリがあり、人間だけでなく大切な自然も原子爆弾で傷を負ったのだと思いました。学校でいじめをなくすことや自然を大切にすることが平和につながると思います。

●当時の悲しみや怒り，必死に生きようともがいた跡，一滴の水を求め続けた姿が伝わりました。被爆した方の写真や当時の悲惨な様子にはとても目を向けられなくて，心の中で謝罪しました。いつかきっと目を向け，もっと理解したいです。

●橋を渡る時，この川には約７０年前亡くなった方がたくさんいたんだと思いながら渡りました。日常にある風景さえも地獄にしてしまう核兵器に恐怖を覚えました。

●私たち自身は大人じゃないから立派なことはできないけど，こんなひどいことを二度と起こさないように，殺人事件でも何でも世の中に起こっているニュースに目を向けてしっかりと見ようと思いました。